

表彰

これまでの活動に対し、下記の通り表彰いただきました。

■中村警察署 感謝状 (2014年1月10日)

地域での活動、警察との協力・連携が評価されました。これまで、COP10の際にはウェルカムボードやフラワーコンテナ設置の相談、また道路を利活用した社会実験では道路使用許可申請、そして昨年度からは名古屋駅地区打ち水大作戦への参加や防犯講演会の講師と、大変お世話になっています。



中村警察署 感謝状

■名古屋市 消防功労者表彰 (2014年1月31日)

2012年7月、名古屋市との間で「名古屋駅地区における防災・減災街づくりに向けた協力・連携に関する協定」を締結し、第1次名古屋駅周辺地区都市再生安全確保計画の策定に関与しました。本年度からは第2次計画や水害タイムラインの検討などを通して、互助・共助の仕組みづくりを進めていきたいと思っております。



消防功労者表彰 感謝状

■国土交通省 まちづくり功労者表彰 (2014年6月16日)

協議会の活動が「50社を超える民間企業が想いをひとつにし、名古屋の玄関口にふさわしい空間づくりに貢献した」と評価されました。具体的には、道路を利活用した社会実験やおもてなし花だん、打ち水の実施などです。私どもにとって有難いのは最初の文節「想いをひとつに」であり、重要なのは会員の真摯な姿勢だと思っております。



まちづくり功労者表彰 表彰状

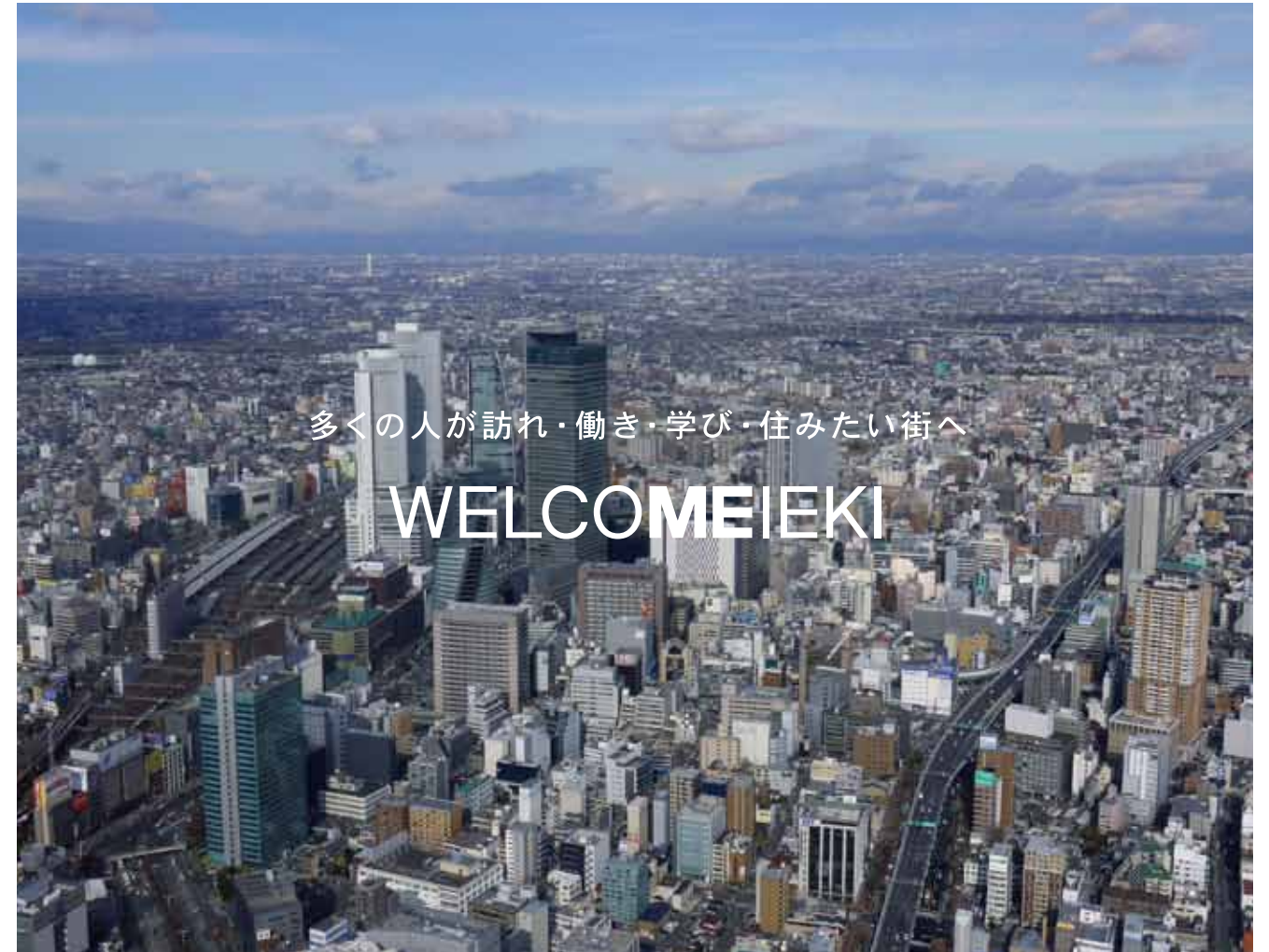
事務局長退任

6月末で事務局長を退任し、藤井さんにバトンタッチしました。6年間にわたり事務局として、皆様と共に名古屋駅地区の街づくりに携われたことを誇りに思っています。全ての活動が初めての事ばかりで、その山を越えなければ実現できませんでした。今では、行政の皆さんとの連携も取れ、2027年のリニア開通に向けて大きな流れができたと思います。誰かがやるだろうでなく、自らが行動を起こして魅力ある街を創って行ってください。ありがとうございました。

鈴村 晴美



名古屋駅地区街づくり協議会 会報 VOL.4



当協議会の活動も今年で7年目に入りました。平成20年3月21日の設立時は会員数29法人でしたが、その後、多くの賛同を得て9月末現在、正会員51法人、賛助会員55法人を擁するまでになりました。これは、地域の皆様の当協議会活動への理解が深まるとともに、街の魅力向上や将来像に対する真摯な議論や提案が、そして日頃のさまざまな社会貢献活動が目ざされ、認められてきたからでもあり、あらためて関係各位のご理解・ご協力とご尽力に深謝いたします。

また、今回「名古屋駅地区街づくりガイドライン2011」を進化させた「名古屋駅地区街づくりガイドライン2014」が会員各位の真剣な議論のもと、ようやく決定される運びとなりました。あわせて、これを具体的に進めていくための

「行動計画(ガイドライン)」も多くの議論を経て、立案されました。

名駅地区においては現在いくつもの開発プロジェクトが進行中です。2027年開業に向けて、リニア中央新幹線プロジェクトも始動し、注目を集めるとともにホットなエリアでもあります。都市間競争力を備えた街・名駅を創造し、より一層の魅力と活力を創出する「ターミナルシティ」の実現に向かって、皆様ともども努力してまいりたいと思っております。

名古屋駅地区街づくり協議会
会長 水尾 健一



WELCOMEIEKI

幹事会活動 2014 上半期のふりかえり

幹事長 黒部 三樹
(三井不動産株式会社)



会員および賛助会員企業の皆様には、日頃から幹事会の活動にご理解、ご協力を賜り、まことにありがとうございます。幹事会を代表いたしまして、今年度より幹事長会社を拝命しております三井不動産より、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、今年は名古屋駅周辺における大きな環境変化の年となります。本年8月にJR東海によるリニア中央新幹線の事業認可が国に対して申請されました。また、同じタイミングで名古屋市による駅周辺のまちづくり構想案も示され、それを具体に実現するためのプロジェクト調整会議も始まろうとしています。

リニア新幹線開通予定の2027年まであと13年、名古屋駅周辺地区の「あるべきまちの姿の実現」に向け、もはや一刻の猶予もない「待たなし」の状況となりました。

当協議会も発足以来7年目を迎えておりますが、今年はガイドラインの改定という大きな節目の年ということも

あり、各委員会の動きも活発化しております。具体的には各委員会組織トップの横通しの場としての代表者会議の開催、事務局機能をよりパワーアップさせるための事務局会の組成など、これまでの各種専門委員会およびワーキンググループの活動と併せて加速しているところです。

駅地区地権者を中心に構成している当協議会としましても、将来の名古屋駅周辺地区が世界に誇れるスーパーターミナルシティと変貌できるよう、これまで以上に会員企業の皆様の意見に耳を傾けつつ、ガイドライン2014の実現に向けて全力で取り組んでいく所存であります。



定期総会(2014年4月24日)



拡大幹事会(2014年3月26日)

運営委員会について

運営委員長 佐藤 嘉洋
(千福企業株式会社)



5月に運営委員長を任せられた佐藤でございます。

私ども運営委員会の役割としては、街づくり協議会、この組織としての基本を守り、各々の会員が積極的に実践し、ときには順守すべき行動、判断の基準を提示し、当協議会が目標達成までの間、息切れしないようルートを設定していくことと考えております。

また、会員の増強も大きなテーマであります。名駅地区

には、未入会の地権者、企業があり、地権者の1人として、勧誘活動に努めて行きたいと思っております。ただし、それには、当協議会が入会して良かったと思わせるものでなくてはなりません。会員皆様で協議会の各委員会、ワーキンググループ活動、会員交流イベント等を充実させ、協議会の魅力向上に努めていきたいと思っております。



運営委員会 全員集合写真



講演会 大分市(2014年1月28日)



梅田地区エリアマネジメント実践連絡会との情報交換(2014年8月7日)

WELCOMEIEKI

事業企画委員会をふりかえって

事業企画委員長 神戸 敏彦
(名古屋地下街株式会社)



事業企画委員会の一年間の活動を報告いたします。

- ・ 毎月の清掃活動の実施
- ・ おもてなし花だんの年2回募集
- ・ 2013年11月
街歩き(西ルート)実施
- ・ 2013年12月
年末クリーンキャンペーン開催
- ・ 中村警察署から講師を招いて、防犯講演会「反社会的勢力の情勢とそれに対する危機管理」開催
- ・ 2014年2月
街づくり協議会ロゴ入りベストの販売決定
- ・ 2014年3月
WEBリニューアルを決定

- ・ 2014年5月
東京大丸有から講師を招いて「打ち水他公共空間利活用勉強会」開催
- ・ 2014年6月
中村区クリーンキャンペーンに参加
- ・ 2014年7月
名古屋駅地区打ち水大作戦開催

今後とも地域の活動、賑わいづくり、協議会PR活動など継続して推進してまいります。



清掃活動



おもてなし花だん

「打ち水大作戦 2014」の実施

委員 南 幸宏 (錦成ビル株式会社)

平成26年7月18日に、第6回目「名古屋駅地区打ち水大作戦 2014」を実施いたしました。ご参加いただきました「街づくり協議会正会員・賛助会員」のほか、各協賛・協力会社様のご協力により無事開催することができました。参加者数も過去最大の約450名に達し、連日の猛暑に負けじとご提供いただきました再生水にて打ち水を行い、『環境』にも配慮しました。

今年は昨年同様学生さんに加え、会員様等たくさんの方に浴衣でご参加いただきました。また、エビログでは、世界ユネスコ世界会議PRキッズユニット「sweet magic」によるPRステージなど『賑わい』にも配慮し、会員交流を深められたのではと思っています。

事業企画委員会といたしましては、毎月名駅エリアにて「清掃活動」・「自転車の違法駐輪撲滅活動」を会員様にご参加いただき実施していますが、今後とも『快適・安全』に配慮し「打ち水大作戦」を継続していくため、皆様のご協力をいただき取り組んでいきたいと思っております。

ぜひ来年は皆様多数の“浴衣”でのご参加を望みます。



セレモニー会場



呼び水



A, Bゾーン(ミッドランドスクエア前)

都市再生委員会をふりかえって

都市再生委員長 高崎 裕樹
(名古屋鉄道株式会社)



都市再生委員会では、2013年度より『名古屋駅地区街づくりガイドライン2014』の策定に向け検討を行ってきました。これは地区内での開発プロジェクトの進行や、名古屋市による街づくりの検討の進展に鑑み、『名古屋駅地区街づくりガイドライン2011』の具体化・深度化を図ったものです。

策定に当たっては、本年5月に実施した街づくりミーティングをはじめとして、会員の皆様や関係者の方々からさまざまなご意見をいただき、本当に多くの方の想いが詰まったガイドラインをつくり上げることができたと思います。

行政はじめ各団体との連携も積極的に実施しています。昨年12月には、名古屋市に対し『なごや交通まちづくりプラン(素案)』に対する協議会としての意見を提出しました。

また、本年8月には東京都市大学の小林教授、名古屋大学大学院の森川教授、名古屋商工会議所、中部経済連合会、中部圏社会経済研究所、名古屋市に参加いただき

「第8回名駅地区ターミナルシティー形成に向けての意見交換会」を開催し、ガイドラインに関する意見交換や各団体の街づくりへの取り組みに関する情報共有を行いました。

今後は、ガイドラインに定めた目指す街＝“ターミナルシティー”の実現に向けて、当協議会が3ヵ年で取り組む内容をまとめた「行動計画」に基づき、街づくり活動を計画的・積極的に推進してまいります。会員の皆様におかれましては、引き続きご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。



『なごや交通まちづくりプラン(素案)』に対する意見の提出(2013年12月27日)



第8回名駅地区ターミナルシティー形成に向けての意見交換会(2014年8月20日)

街づくりミーティングに参加して

委員 岡 豊樹 (日本生命保険相互会社)

はじめて参加させていただきました街づくりミーティングにおいては、名駅の動線、駅周辺の活性化といった話にとどまらず、「名古屋がその特性を活かしつつ、今まで以上に魅力ある都市になるには」まで活発な意見交換が行われ、さまざまな会社・立場の方々が目を見守りお話しされる姿を見るなかで、リニア開通も控え、大きく生まれ変わる「名古屋」の素晴らしい未来に夢膨らませるとともに、自分もその一助となれるよう努めていきたいと感じた次第です。



委員 原 佳宏 (株式会社電通)

街づくり説明会&ミーティングでは、名駅地区の将来像を示す街づくりガイドライン案を共有し、その後、名古屋駅の将来像について、熱く議論をしました。

多種多様な分野で活躍されている会員の皆様方が集まり、名駅ひいては名古屋の発展を真剣に語りあったその議論は非常に刺激的であり、多くの気づきを得ることができました。

今まさに大きく変動しつつある名駅地区と名古屋の本当の意味での発展を考えるのには、このような複合的な議論がとても大切なんだということを強く印象付けた一日でした。



『名古屋駅地区街づくりガイドライン(素案)』・『名古屋駅周辺まちづくり構想素案』説明会 & 街づくりミーティングの開催



都市再生委員会 事務局 高井 勇輔 (名古屋鉄道株式会社)

2014年5月13日、都市再生委員会の主催により、“『名古屋駅地区街づくりガイドライン(素案)』・『名古屋駅周辺まちづくり構想素案』説明会&街づくりミーティング”を行い、総勢75名の会員の皆様に参加していただきました。本会は、4月の協議会総会にて、素案として提示した『名古屋駅地区街づくりガイドライン2014(素案)』について、会員の皆様に理解を深めていただくとともに、成案策定に向けて街づくりに対する意見や想いを広く収集することを目的として開催しました。

会の冒頭、本年3月に公表された『名古屋駅周辺まちづくり構想素案』について、名古屋市より説明をいただきました。ガイドラインの実現・実行に向けては、行政と連携して取り組んでいく施策も多くあることから、上位計画の理解を高める貴重な機会となりました。

名古屋市からの説明の後、『名古屋駅地区街づくりガイドライン2014(素案)』に関する説明を行い、街づくりミーティングをスタート。ガイドラインに対する質問や意見、街づくり全般に対する想い、今後の取り組みや検討すべき事項などについて、10名前後の計8グループに分かれてミーティングを行いました。出された意見や想いは全て成果として整理し、最後にグループ毎にトピックを発表し、全体で共有しました。全体を通して、ガイドラインの記載で不足している部分など意見も多々いただきましたが、方向性については概ねご賛同いただけたのでは

ないかと感じています。また、何よりも、会員の皆様一人ひとりの街づくりに対する想いを直接お聞きできたことは、本会の大きな意義だったと思います。

街づくりミーティング実施後の5月～6月にかけては、メールマガジンにてガイドラインに対する意見募集を実施し、計35件の意見をいただきました。街づくりミーティングでの意見とあわせて、成案策定に向けた検討に当たり、大変参考になりました。

街づくりミーティングや意見募集では、名駅の目指すべき将来像をこれからどのようにつくりあげていくべきかという観点からの意見を数多くいただきました。今後も、ワークショップや意見交換の場を設け、会員の皆様の意見を広く収集させていただきながら“新たな名駅(メイエキ)らしさ”を創り上げるべく、検討を重ねていきたいと思っております。

引き続き都市再生委員会の活動へのご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



最近の 安心・安全街づくりワーキング

リーダー 松田 諭
(株式会社ユニモール)



昨年までは、行政が主体となって推進する防災関連の各種の計画策定やプランニングに参画し、名駅地区としてのエリア防災レベルの向上のための情報発信や提言などを主として活動してまいりました。

一方で、メンバーの中から次の2点にも力を注ぐべきだとの共通認識も育ち始めました。

①エリア防災のために自分たちが主体となって取り組む具体的な事業や活動も必要である。

②近年の時間雨量100mm オーバーの都市型豪雨に対応すべく、浸水防止対策も重要である。

以上のことから、現在は「各事業所間で防災情報をリ

アルタイムで共有できるプラットフォームの調査や試行」「名駅地区での浸水状況や冠水状況を常時モニタリングできるシステムの設置調査」「大型台風によって庄内川が破堤した際に取りべき行動要領(タイムライン)の作成と図上訓練の実施」を軸に活動を行っています。



名古屋駅地区減災連携会議(2014年5月12日)

安心・安全街づくりワーキングに参加して

サブリーダー 犬塚 博之(株式会社ナゴヤキャッスル)

南海トラフ対策はもちろん、最近では集中豪雨による災害が多数発生しております。

名古屋駅地区の安心・安全街づくりワーキングでは、帰宅困難者対策、都市再生安全確保部会、事前防災行動計画(庄内川タイムライン)と、さまざまな形でエリア防災に取り組んでおり、名駅地区が「安心・安全」をブランドとしたエリアとして認知される日も近いのではないかと感じております。国土交通省が全国に先駆け、取り組んでいる庄内川タイムライン作成では、関係機関の方々と連携して、かなり専門的な議論を交えての取り組みをしています。名駅地区は浸水被害が過去にも発生しており、多種多様な人々の生命を守るエリア防災の必要性を感じました。そのためには、日頃から名駅エリアの「災害時の行動ルール(名駅ルール)」を作成して、正確でスピーディーな情報発信により、滞在者、来訪者が適切な行動をとれるような環境づくりが必要と感じました。(自助のできる環境づくり)

《今年8月の豪雨災害時の対応あれこれ》

- ・8月10日台風11号 高知県では独自ルールにより高潮防潮堰を閉めて高潮被害をくい止めた。
- ・8月16日豪雨 高山市では避難勧告を独自で出して人的被害を防いだ。
- ・8月20日豪雨 広島市では避難勧告が遅れ82人が被害者(死者、行方不明者)となった。
- ・8月24日豪雨 北海道礼文町では目の前の対応で手一杯で避難勧告が出せなかった。



道路冠水状況(2013年9月4日)

エリア防災に関する先進事例ヒアリング

委員 中野 忠光(三菱地所株式会社)

本年6月、名古屋駅周辺地区におけるエリア防災の検討に資するため、安全確保計画部会・企画運営分科会のメンバーにて先進的な取り組みを行っている新宿区役所と大丸有協議会(東京丸の内)にヒアリングを行いました。

新宿区役所は、自助・共助・公助を定めた「新宿ルール」が東日本大震災で一部機能しなかったとの反省から、情報・誘導・医療・環境の仕組みづくりを中心とした「新宿モデル」の作成に取り組んでいる。特徴的と思われた点は、帰宅困難者は被災者ではなく、対応を二の次としていること、また発災時は滞在者が自ら現地本部を立ち上げ、情報発信を行うスキームを構築すること。

一方、大丸有協議会は、単に帰宅困難者対策としてだけでなく、地区事業継続を目的として考えている。地区事業継続計画(DCP)のテーマとして「計画の担い手」、「退避施設の確保」、「医療体制の強化」、「エネルギー・水・情報通信の強化」、「エリアにおける情報提供」の5つを掲げている。特徴的と思われた点は、退避施設で負傷者が生じたときの責任を千代田区が負ってくれるという協定を結んでいること。

今後、これらの事例を踏まえ、当地区のエリア防災のあり方を取り纏めていきたい。



視察風景(2014年6月20日)

公共的空間利活用ワーキングを ふりかえって

リーダー 鎌元 昌一郎
(三菱地所株式会社)



本WGは、昨年度まで道路空間利活用WGとして活動してきましたが、本年度より、公開空地も含めた利活用を視野に入れるという観点から、WGの名称を「公共的空間利活用WG」として活動しています。

平成24年度、25年度には国土交通省からの受託事業として実施していた社会実験協議会を本年度も継続し、エリアマネジメント事業の本格運用を目指した取り組みを行っています。

その一環として実施している街路灯へのバナー広告掲出、工事中仮囲いへの広告掲出では、名古屋市による規制の一時的適用除外により、今年度から仮囲い全面への広告掲出が可能となりました。

従来は仮囲いの10分の1であった広告が全面掲出となることにより、広告価値が飛躍的に大きくなるとともに、広告による街の賑わい創出効果も大きく高まっています。

現在は社会実験後の実運用に向けて、名工大伊藤研究室の協力を得ながら、広告の効果の測定、それを踏まえた当地区にふさわしい広告のあり方の検討(ワークショップの開催)、また掲載する広告を審査、誘導するための基準づくりに取り組んでいます。

また並行して、歩行者案内板への広告掲載による維持管理方策や公開空地の利活用方策等についても検討を行っています。



仮囲い広告(ESDユネスコ世界会議)(5月)



仮囲い広告(KIRIN)(7月)



仮囲い広告(ZARA HOME)(9月)



環境まちづくりサロン(2014年4月22日)



ワークショップ(2014年5月15日)



社会実験協議会(2014年7月30日)



公開空地活用(MSフードガーデン)(2014年8月18日)